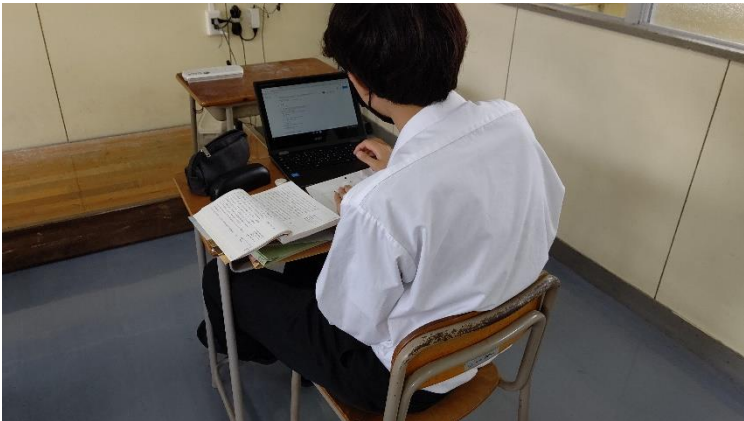


1人1台端末の活用による実践事例

学校名	岡山県立勝山高等学校蒜山校地		
実践者等	内田浩文	実践日	令和3年9月17日
実践場面 (教科・科目、学校行事等)	国語科「現代文B」		
対象生徒(学年等)	2年生		
単元名 (教科・科目の場合のみ)	「文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わう」I 教材：『山月記』中島敦		
使用したアプリ等	Classroom		
実践の概要(ねらい等)	思考した内容を文字化し、さらにデジタル化することで、思考の深まりと「他者に伝える」ための表現を磨く。また、Classroom上で思考を共有することで、多角的な読みを手に入れて表現を味わう。		
実践の内容			
<p>(1) ワークシートへの記述</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自で、ワークシートに示された「演習」に解答する。 <p>例：「李徴が、官吏としての出世が約束されていながら、詩人になる道を選んだのはなぜか」</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 1; padding-left: 10px;"> <p>※「ワークシートへの記入」が済んだ後に Classroom に打ち込むように指示する。</p> <p>※左の写真でわかるように、「アナログ」と「デジタル」をあえて共存させる。</p> </div> </div> <p>(2) Classroom 上の「演習」該当部分に、各自の解答を入力する。</p> <p>例：「官吏の仕事は、自分が死んだ後に次の人が受け継いで、上書き？されてしまうかもしれないけど、詩人だったらいつまでも自分の作品だから。」</p> <p>(3) 打ち込まれたすべての解答をスクリーンに投影し、分類・価値付けしつつ、授業者が板書に書き出す。</p> <p>(4) 生徒は板書とスクリーンを参考に、各自のリフレクションシート(Classroom 上のデジタルデータ)に整理する。</p>			
参考となる HP 等	この実践は、「教育科学 国語教育 11月号 『わかる!できる!国語教師のための1人1台端末授業ガイドブック』(明治図書)に寄稿したものです。		